

# 01【事業合計】 過年度の経営状況の推移

※R5～R6は見込

資料 1

- 事業規模の拡大（稼働病床の増加）に伴い、収益・費用とも増加傾向
- 新病院開院年度は、患者調整等による収支悪化の影響で、大幅な経常赤字となる傾向
- 老朽化や他機関との統合再編に伴う建替え整備の影響で、財源として発行した企業債の残高と元金償還額が増加

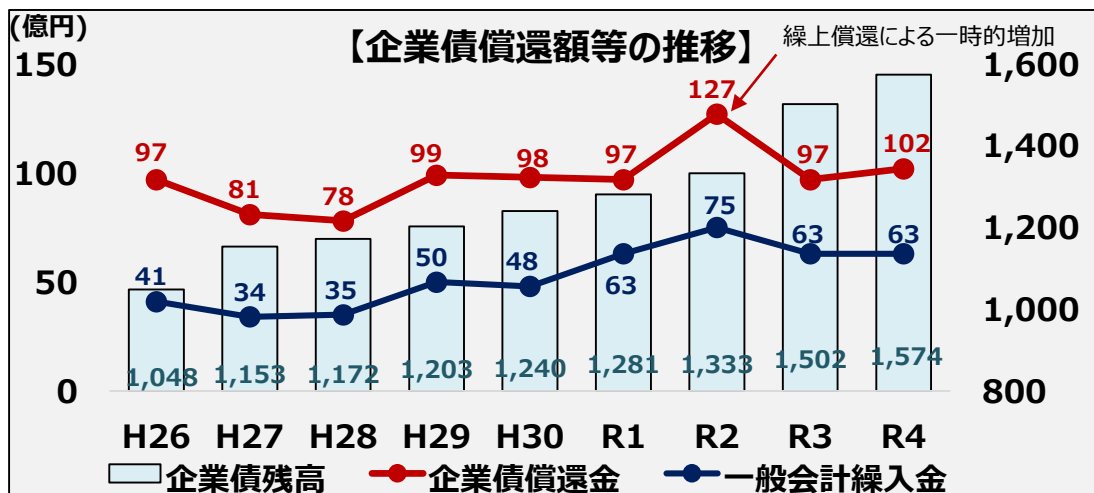
## 1. 稼働率・収支の推移

(単位：床、%、億円)

区分	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
稼働病床数	3,507	3,437	3,438	3,420	3,426	3,480	3,492	3,492	3,830	3,934	3,934
病床稼働率	80.6	80.9	82.3	84.3	82.4	81.4	67.6	68.6	74.8	79.7	83.1
経常収益	1,095	1,129	1,221	1,281	1,308	1,333	1,411	1,471	1,592	1,643	1,676
経常費用	1,102	1,171	1,242	1,280	1,312	1,365	1,403	1,443	1,622	1,711	1,755
経常損益	△ 7	△ 42	△ 21	1	△ 4	△ 31	7	28	△ 30	△ 68	△ 79
純損益	△ 14	△ 91	△ 56	0	0	△ 40	△ 55	32	△ 85	△ 73	△ 90

## 2. 企業債償還額等の推移

※繰入金は、行革カット分精算の影響を除外

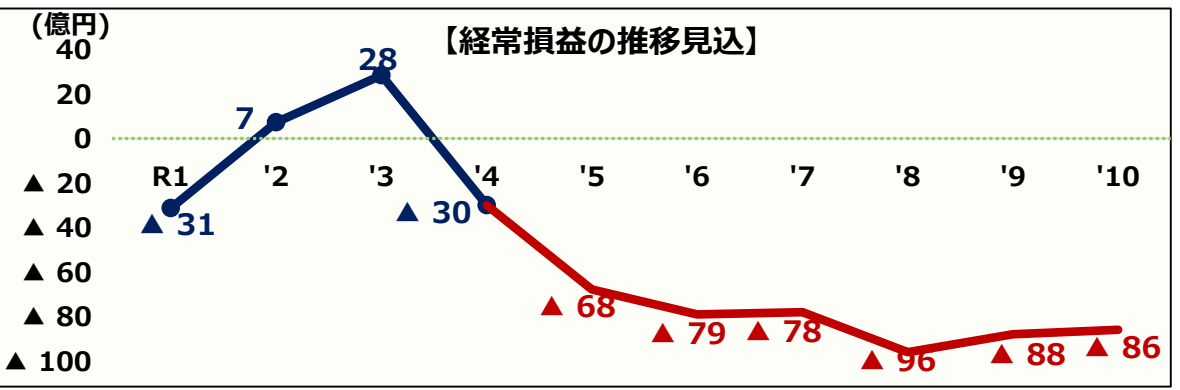


## 3. 建替整備の状況

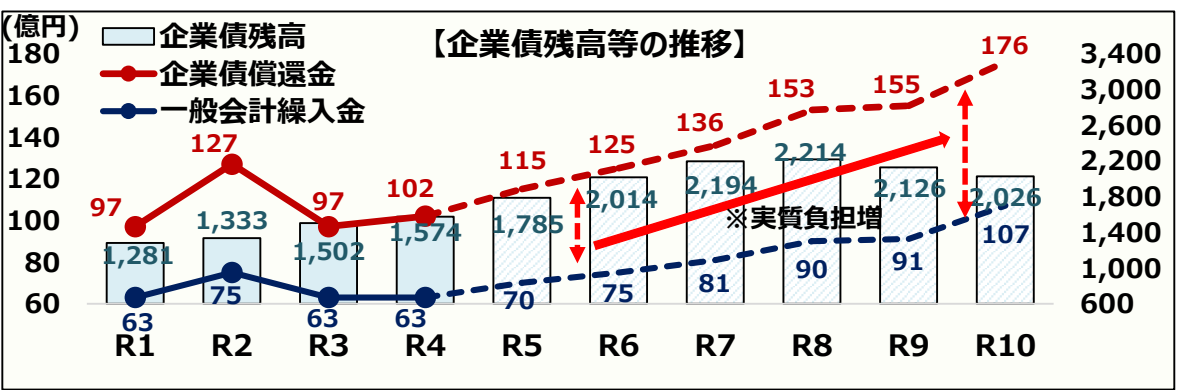
年度	区分	病院	病床数	備考
H21	総	加古川医療センター	353	移転新築
H25	総	淡路医療センター	441	移転新築
H27	総	尼崎総合医療センター	730	県立2病院統合再編
H28	専	こども病院	290	移転新築
H29	専	神戸陽子線センター	-	新規開設
R1	総	丹波医療センター	320	公的病院と統合再編
R4	総	はりま姫路総合医療センター	736	民間病院と統合再編
R8予	総	西宮総合医療センター(仮称)	552	市立病院と統合再編
R8予	総	がんセンター	360	現地建替え

# 02【事業合計】 将来の収支推移見込

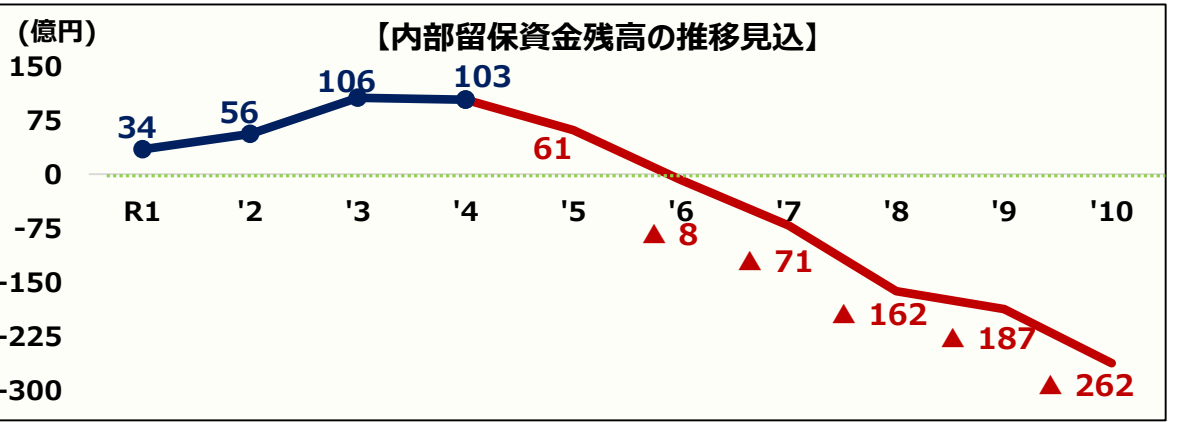
## 1. 経常損益



## 2. 企業債償還額



## 3. 内部留保資金残高 ※内部留保資金残高 = 流動資産 - 流動負債 (企業債除く)



### 1. 試算の前提

- R5：9月末実績をベースに、コロナ前過去3年間の下期の伸び率を乗じて試算
- R6：病院作成のR6当初予算に、給与改定等の影響を加味して算定
- R7～：R5当初予算策定時に見込んだ将来推計値から、R6年度再算定の収支のマイナス分と同額を下方修正

※R6診療報酬改定の影響は含まず、現状の物価水準が継続するものとして算定

※R5検討の経営改善対策に伴う収支改善見込額 (22億円/年) を含む

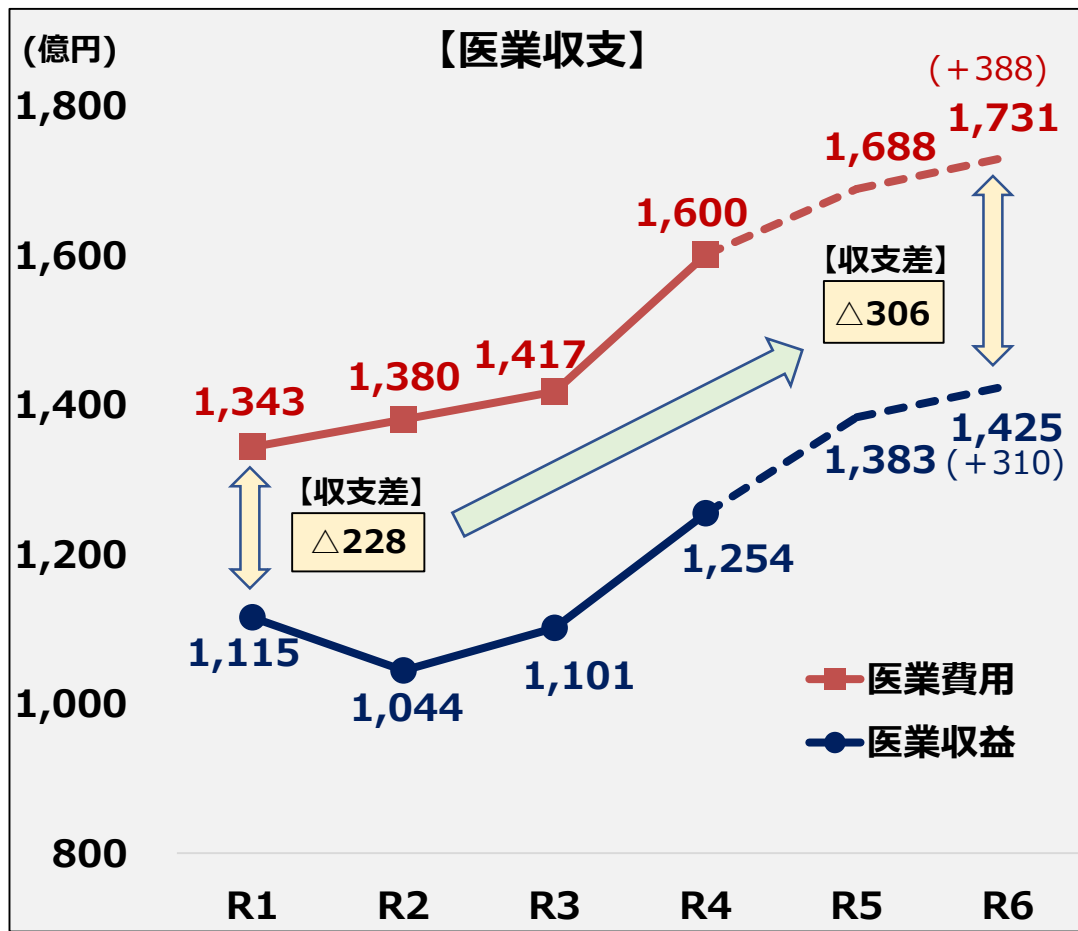
### 2. 試算結果

- 経常損益：R5以降、過去にはない規模の赤字が継続する見込み
- 企業債償還：連続した建替え整備に伴う、企業債償還の実質負担額が増加した影響で、資金収支が悪化する見込み
- 内部留保資金：経常損益の悪化や企業債償還額の増に伴い、R6にマイナスに転じる見込み

# 03 【事業合計】 医業収支の推移 (R1 → R6) ※R5~R6は見込

- R1→R6見込比較で、医業費用の増（388億円）が、医業収益の増（310億円）を上回り、収支差が78億円拡大
- 病院別での比較でも、ほとんどの病院で医業収支が悪化（費用の増加額を、収益の増加額で吸収できていない）
- 病院事業全体の経営改善に向けて、更なる収益の確保とコスト圧縮への取組みが喫緊の課題

## 1. 医業収支



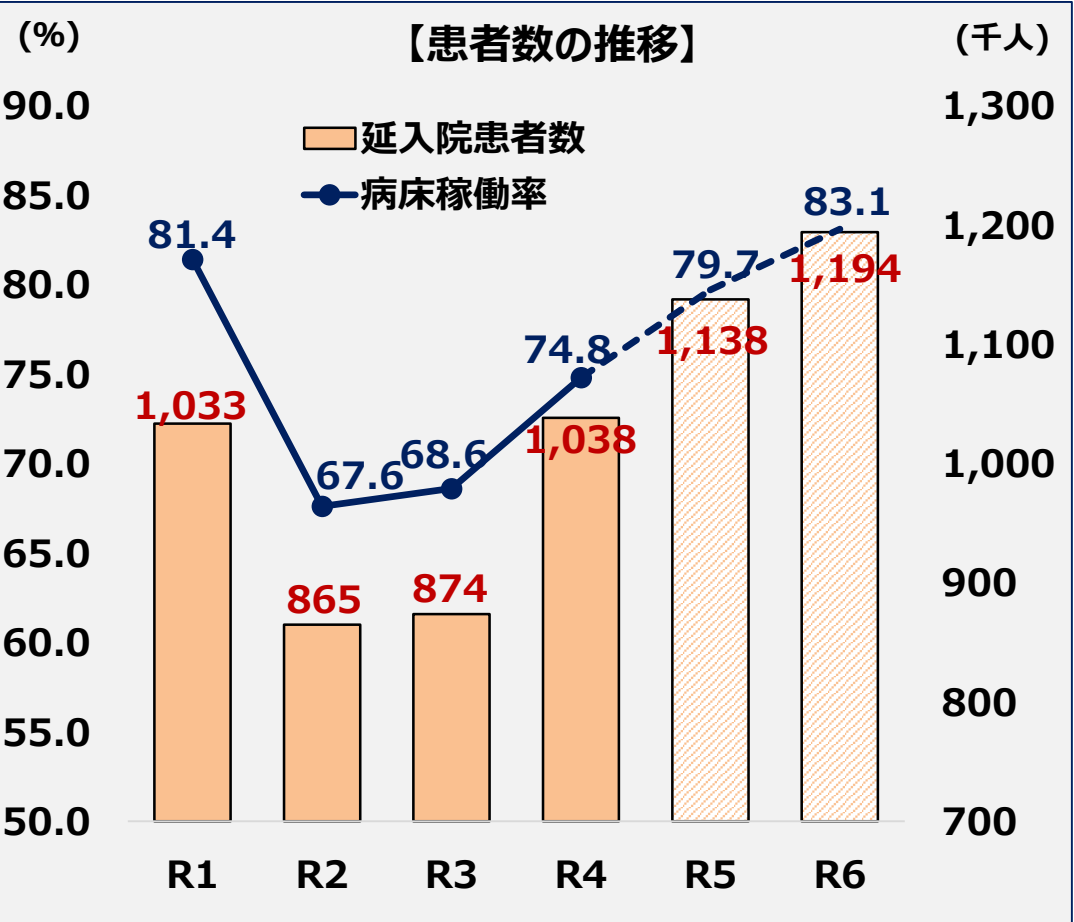
■ 医業収支 (医業収益 - 医業費用) (単位：億円)

病院	R1	R2	R3	R4	R5	R6
尼崎	△43	△70	△64	△54	△49	△47
西宮	△17	△29	△24	△27	△24	△21
加古川	△22	△50	△43	△40	△30	△31
姫路	△18	△24	△23	△71	△55	△56
丹波	△22	△30	△31	△26	△26	△28
淡路	△22	△32	△28	△27	△26	△24
こころ	△20	△27	△27	△23	△23	△22
こども	△32	△36	△36	△35	△30	△33
がん	△15	△19	△20	△20	△20	△24
粒子	△9	△12	△13	△16	△15	△14
陽子	△8	△7	△7	△7	△7	△6
<b>10病院計</b>	<b>△228</b>	<b>△336</b>	<b>△316</b>	<b>△346</b>	<b>△305</b>	<b>△306</b>

# 04 【事業合計】稼働状況の推移 (R1 → R6) ※R5～R6は見込

- 延入院患者数：事業規模の拡大（稼働病床数の増加）に伴い増加傾向
- 病床稼働率：R2～R4はコロナ対応により落ち込んだが、R6には概ねコロナ前まで回復する見込み
- コロナ後の受療行動変化もあり、従来の集患対策を継続しても、コロナ前を上回る大幅な稼働率向上を図ることは困難な状況  
 > 更なる稼働率の向上による収支改善が期待できない

## 1. 患者数の推移



## ■ 病院別病床稼働率 (単位：%)

病院	R1	R2	R3	R4	R5	R6
尼崎	92.9	79.2	78.3	83.8	89.4	92.9
西宮	86.2	71.8	72.3	74.1	75.5	80.4
加古川	81.4	44.6	52.1	61.7	72.9	75.9
姫路	69.5	63.3	65.9	77.7	86.2	87.9
丹波	85.2	73.4	78.4	80.2	84.9	88.7
淡路	82.6	70.6	71.2	75.4	80.7	82.4
こころ	65.4	43.3	47.8	59.6	62.8	71.6
こども	86.7	78.3	78.6	80.5	87.3	84.1
がん	72.7	70.1	62.4	69.1	65.9	71.7
粒子	57.3	50.3	46.2	47.8	43.5	50.8
10病院計	81.4	67.6	68.6	74.8	79.7	83.1

# 05【事業合計】 主な費用項目の推移 (R1 → R6) ※R5～R6は見込

給与費：コロナ禍を除き、R5以降は医業収益の増加率の範囲内に収まっている → **人材投資に見合った収益を獲得**

材料費：高額抗がん剤の使用増による薬価差益の縮減等により、医業収益の増加率を超過

経費：物価高騰による委託費や光熱費等の増嵩圧力により、医業収益の増加率を大幅に超過

**コスト増に見合った収益を獲得できない**

## ■ 医業収益と主な費用の推移

(単位：百万円)

区分	R1	R2	R3	R4	R5	R6
医業収益	111,481	104,421	110,086	125,363	138,307	142,465
給与費	66,959	70,455	70,971	79,120	80,199	82,224
材料費	38,377	37,067	38,780	44,012	49,347	50,503
経費	19,211	20,116	21,442	26,085	26,821	27,940
稼動病床	3,480	3,492	3,492	3,830	3,934	3,934

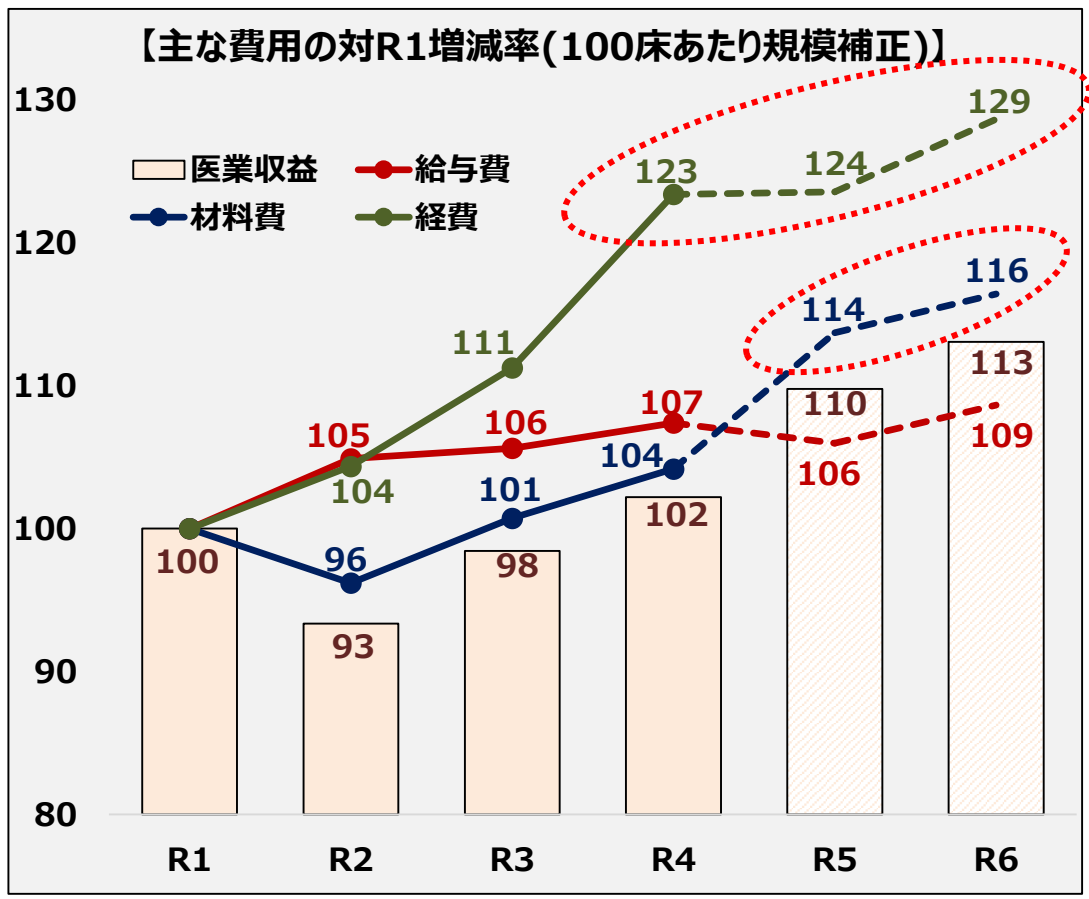


## ※規模補正後 (100床あたり)

(単位：百万円)

区分	R1	R2	R3	R4	R5	R6
医業収益	3,203	2,990	3,153	3,273	3,516	3,621
給与費	1,924	2,018	2,032	2,066	2,039	2,090
材料費	1,103	1,061	1,111	1,149	1,254	1,284
経費	552	576	614	681	682	710

## ■ R1を100としたときの増減率の推移



# 06 各病院の状況①：尼崎総合医療センター ※R5～R6は見込

【目指す病院機能】

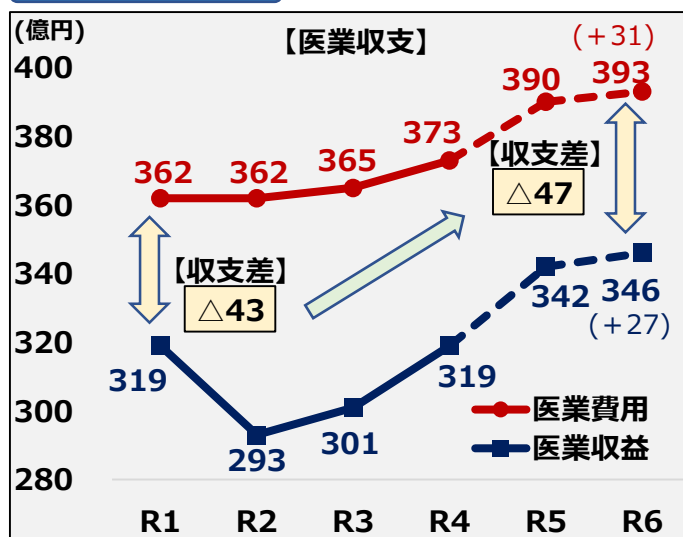
- ① 阪神圏域の医療や介護全体と連携・調整しながら、質の高い高度急性期・高度専門・先端・政策医療を担うとともに、質の高い診療内容を担保するための研修・教育・研究分野に積極的に取り組む。
- ② 職員全員が各部門での当事者意識と病院全体の視野を合わせ持った柔軟な発想力のある病院の組織運営に取り組むとともに、職員が「働きたい病院」「働きやすい病院」「働き甲斐のある病院」を目指す。
- ③ 高度医療の充実、PFMの充実、医療安全面や職場環境、職員の接遇、医療DX等の様々な局面における質的な面において一層の充実を図る。

## 1. 稼働率・収支の推移

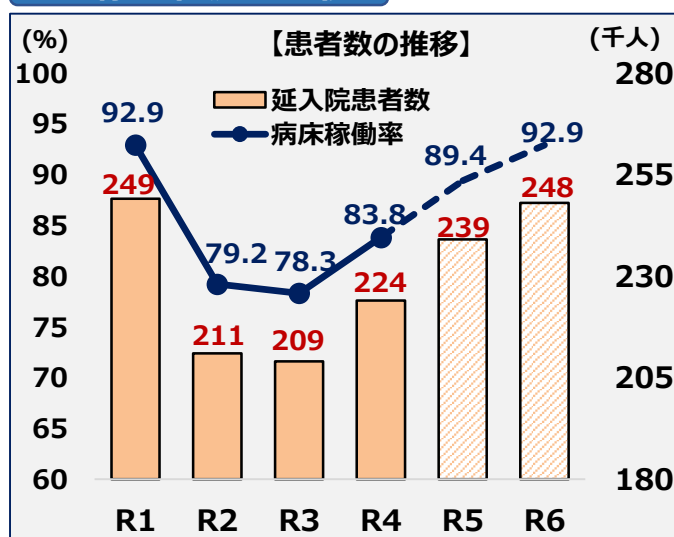
(単位：床、%、億円)

区分	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
稼働病床数	800	730	730	730	730	730	730	730	730	730	730
病床稼働率	86.3	85.3	96.2	95.7	94.4	92.9	79.2	78.3	83.8	89.4	92.9
経常収益	249	258	327	343	355	362	385	397	388	389	391
経常費用	247	286	333	341	352	365	365	368	376	393	397
経常損益	2	△28	△6	2	3	△3	20	29	12	△4	△6
純損益	2	△74	△11	2	0	△3	14	30	12	△7	△6

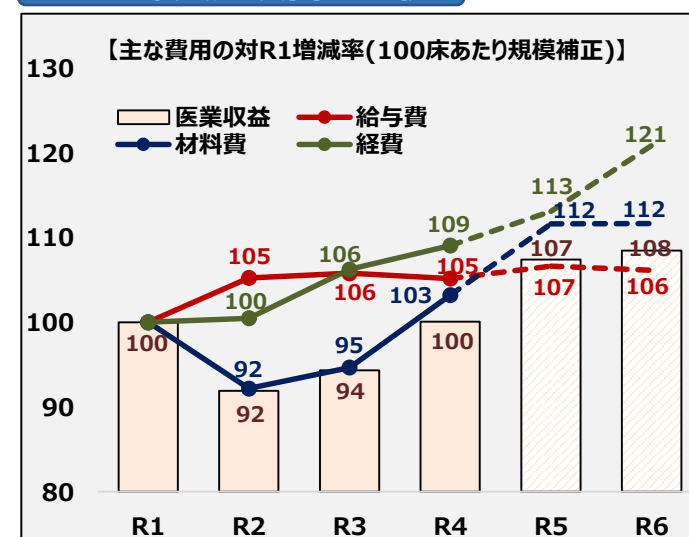
## 2. 医業収支



## 3. 稼働状況の推移



## 4. 主な費用項目の推移



# 06 各病院の状況②：西宮病院

※R5～R6は見込

【目指す病院機能】

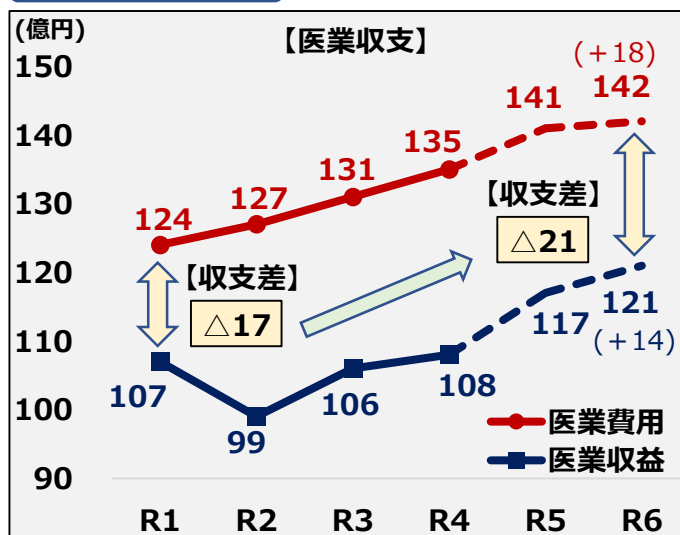
- ① 高齢者人口の増加や疾患構造の変化を見据え、心臓血管外科、呼吸器内・外科、脳神経内科、精神科等を新設し、地域中核病院に相応しい診療体制を確立
- ② 重症外傷や今後増加が見込まれる循環器系疾患の救急医療機能を強化
- ③ がん・血管系疾患等に関する高度・先進医療の提供
- ④ ハイリスク周産期・先天性疾患に対する最後の砦としての医療機能の発揮
- ⑤ ゲノム医療の推進
- ⑥ 生活習慣型疾患(糖尿・透析等)、後期高齢者疾患(誤嚥性肺炎・大腿骨近位骨折等)に向けた地域連携の推進
- ⑦ デジタル技術を駆使したスマートホスピタルの実現
- ⑧ 治験の活性化と医療機能の高度化

## 1. 稼働率・収支の推移

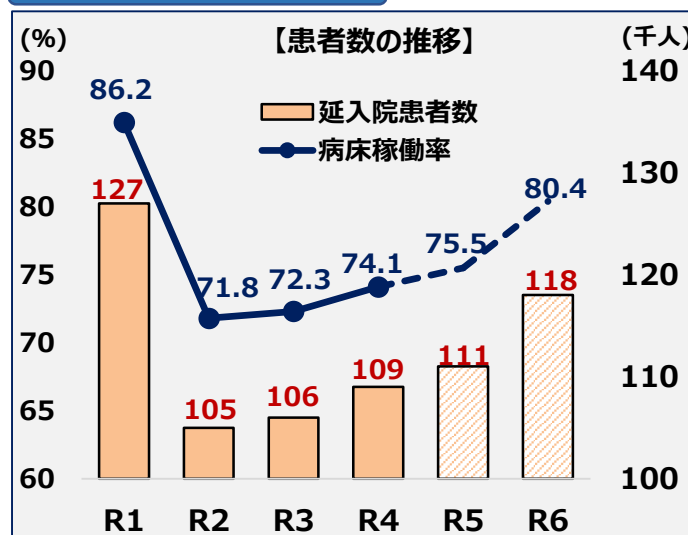
(単位：床、%、億円)

区分	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
稼働病床数	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400
病床稼働率	81.9	84.9	84.2	86.5	86.1	86.2	71.8	72.3	74.1	75.5	80.4
経常収益	111	118	120	125	126	124	125	132	135	135	136
経常費用	107	116	118	122	123	125	128	132	136	141	143
経常損益	4	2	2	3	3	△1	△3	0	△1	△6	△6
純損益	4	2	2	3	3	△1	△8	2	△1	△7	△6

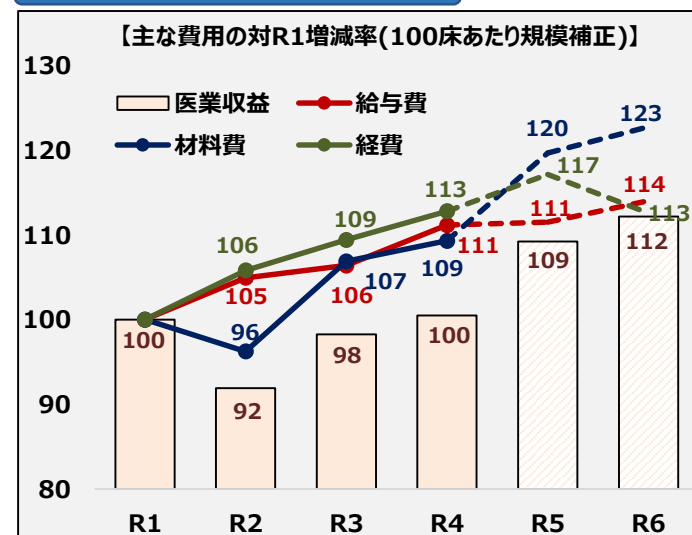
## 2. 医業収支



## 3. 稼働状況の推移



## 4. 主な費用項目の推移



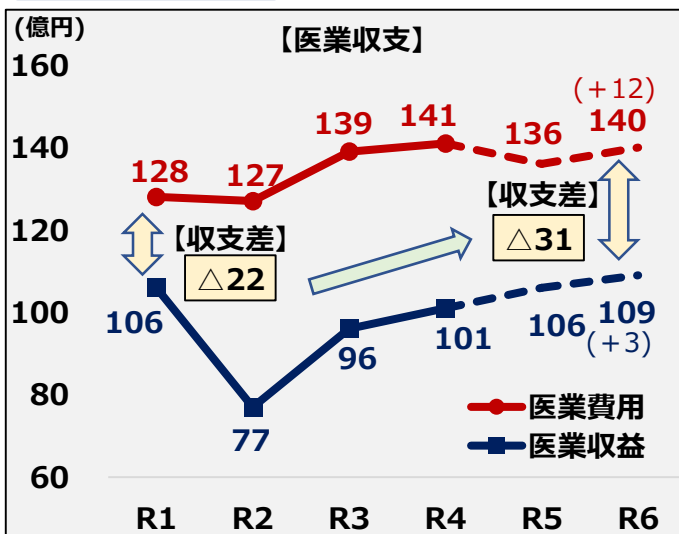
- ① 5つの政策医療（3次救急医療、生活習慣病医療、神経難病医療、緩和医療、感染症医療）について、院内関係部門はもとより地域の医療機関との一層の連携を図り、患者の確保に努める
- ② 整形外科、泌尿器科等当センターの強みとなる急性期医療について、診療機能のアップを図り、さらなる患者の確保を目指す
- ③ 高度急性期・急性期病床について、回復期等への一部転換（地域包括ケア病棟、回復期リハ病棟、障害者病棟）を検討

## 1. 稼働率・収支の推移

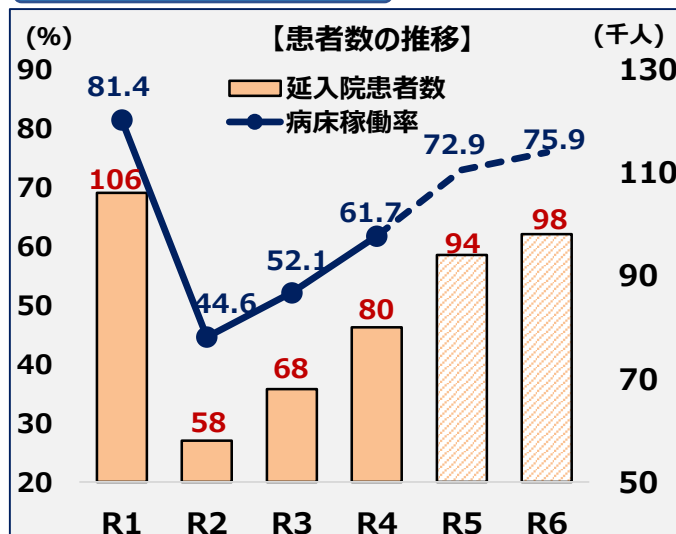
(単位：床、%、億円)

区分	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
稼働病床数	353	353	353	353	353	353	353	353	353	353	353
病床稼働率	81.1	83.0	83.8	81.7	77.8	81.4	44.6	52.1	61.7	72.9	75.9
経常収益	113	120	129	131	128	130	148	161	158	132	132
経常費用	117	124	127	129	129	131	132	143	144	139	143
経常損益	△4	△4	2	2	△1	△1	16	18	14	△8	△11
純損益	△5	△4	0	2	△2	△2	14	20	14	△8	△11

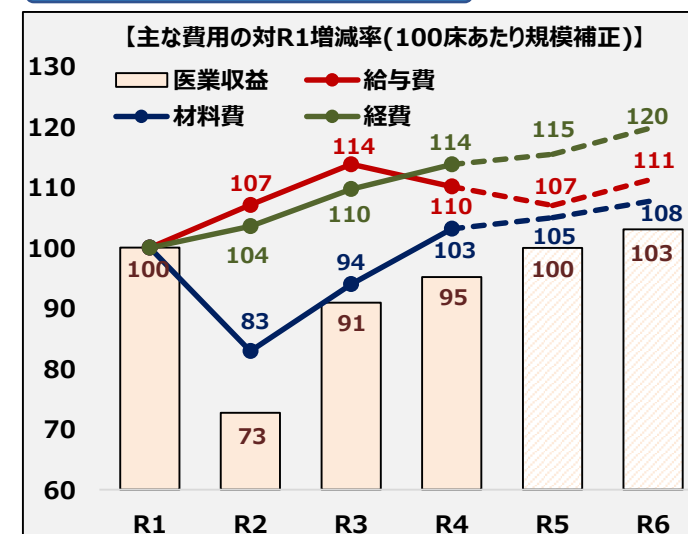
## 2. 医業収支



## 3. 稼働状況の推移



## 4. 主な費用項目の推移





# 06 各病院の状況④：はりま姫路総合医療センター

※R5～R6は見込

【目指す病院機能】

- ① 循環器疾患や多発外傷など、これまで姫循・広畑が担ってきた専門性の高い医療の継承・発展
- ② 播磨姫路医療圏域の地域課題を踏まえた高度専門・急性期医療への対応
- ③ 播磨姫路医療圏域において、幅広い疾患に対応する救急医療機能の確保
- ④ 播磨姫路医療圏域の公立病院・民間病院等と連携し、地域医療ネットワークの中心的役割を果たす
- ⑤ 先進医療への貢献を含めた質の高い診療・教育・研究を行い、若手医師・医療従事者が集まるリーディングホスピタルを目指す
- ⑥ 診療・教育・研究活動の成果を広く公開・還元して、疾病予防の啓発活動や予防医学の進展に貢献

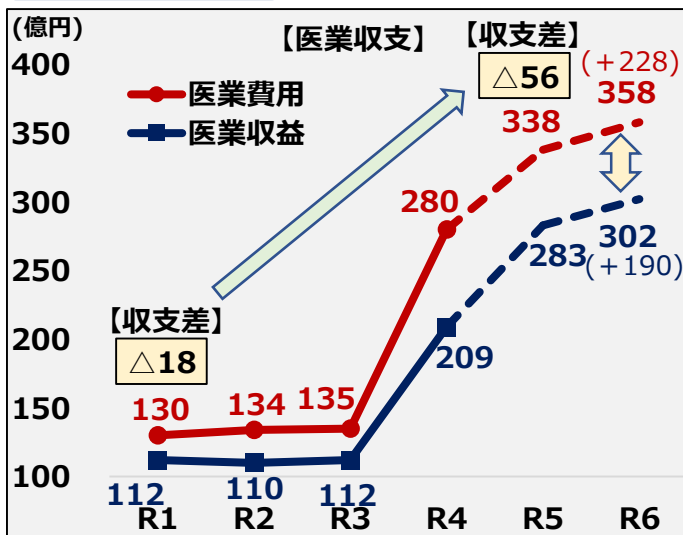
## 1. 稼働率・収支の推移

※R3までは姫路循環器病センター。以下同じ

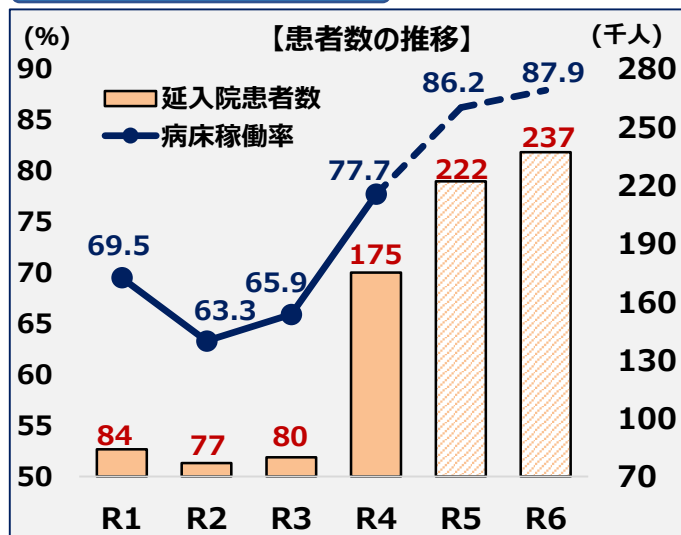
(単位：床、%、億円)

区分	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
稼働病床数	330	330	330	330	330	330	330	330	640	736	736
病床稼働率	72.6	71.6	67.1	70.5	70.1	69.5	63.3	65.9	77.7	86.2	87.9
経常収益	122	119	122	128	129	129	133	138	241	326	350
経常費用	120	116	121	127	128	131	135	140	282	342	362
経常損益	2	3	1	1	1	△2	△2	△2	△41	△16	△13
純損益	3	3	1	1	1	△3	△9	0	△75	△17	△23

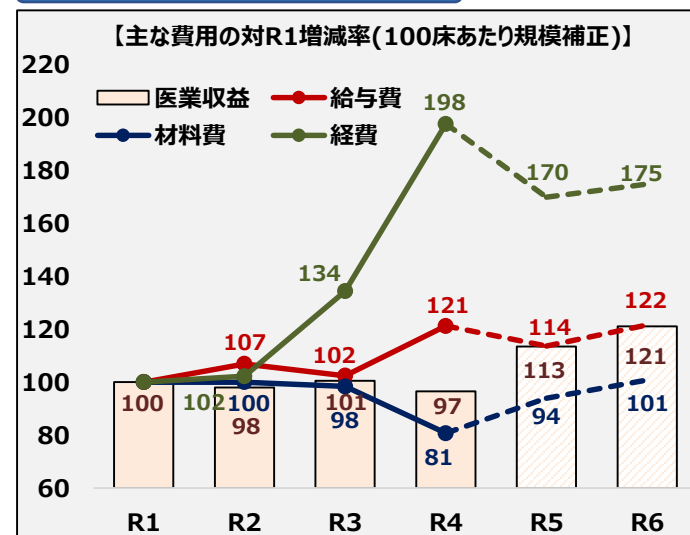
## 2. 医業収支



## 3. 稼働状況の推移



## 4. 主な費用項目の推移



# 06 各病院の状況⑤：丹波医療センター

※R5～R6は見込

【目指す病院機能】

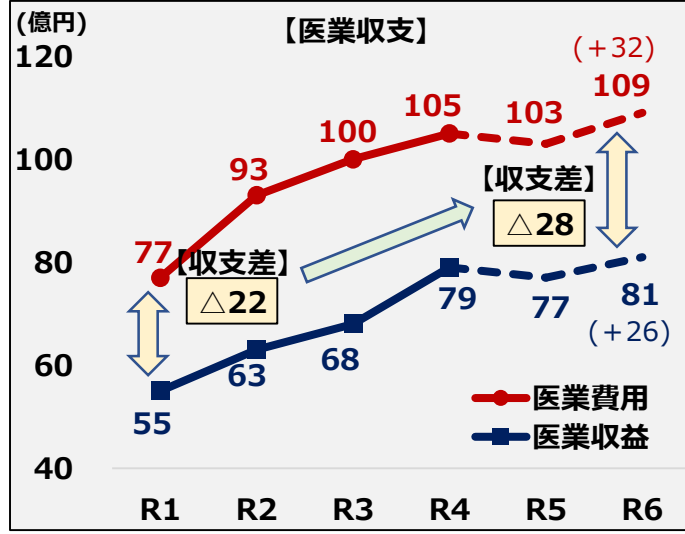
- ① 世界標準の医療を提供し、地域医療の中核病院として良質で安全な医療を提供
- ② 急性期から回復期、終末期までの幅広い医療を提供
- ③ 救急と災害医療の拠点病院としての医療を提供
- ④ 地域の医療機関等と連携し、最良の地域医療システムを構築
- ⑤ 教え学びを病院の文化とし、地域医療に貢献できる人材を育成

## 1. 稼働率・収支の推移

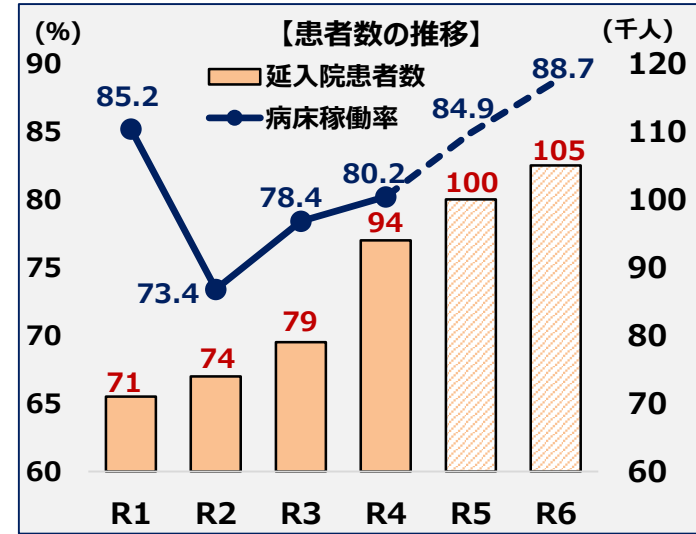
(単位：床、%、億円)

区分	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
稼働病床数	184	184	184	184	184	238	275	275	320	320	320
病床稼働率	78.6	86.6	90.5	86.3	87.2	85.2	73.4	78.4	80.2	84.9	88.7
経常収益	46	50	51	51	54	69	92	99	108	97	100
経常費用	52	57	55	55	56	79	97	102	107	106	111
経常損益	△6	△7	△4	△4	△2	△10	△5	△3	1	△8	△11
純損益	△6	△7	△4	△4	△4	△15	△16	△13	△22	△10	△11

## 2. 医業収支

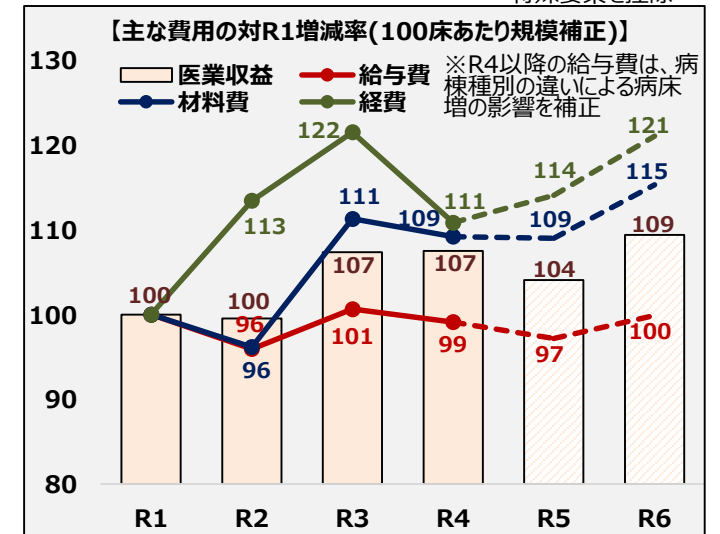


## 3. 稼働状況の推移



## 4. 主な費用項目の推移

※R1経費は開院時の特殊要素を控除  
※R4以降の給与費は、病棟種別の違いによる病床増の影響を補正



# 06 各病院の状況⑥：淡路医療センター

※R5～R6は見込

【目指す病院機能】

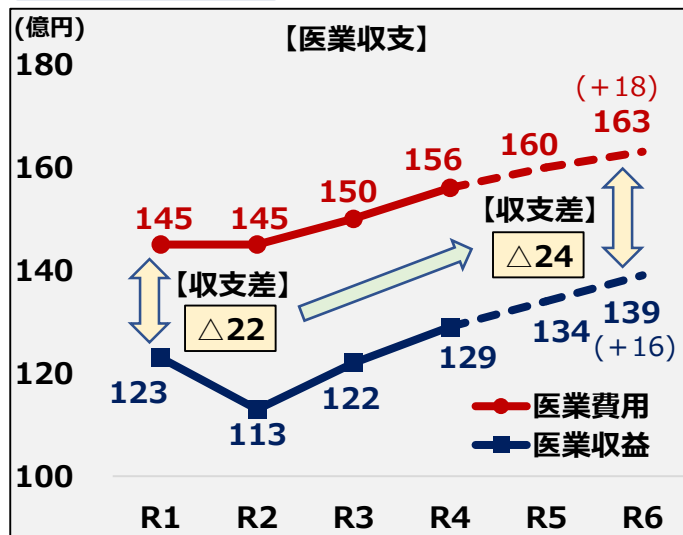
- ① 救命救急を含む急性期医療の提供
- ② 地域がん診療連携病院としての専門的医療の提供
- ③ 地域医療支援病院としての医療・保健・福祉機関との連携
- ④ 周産期医療体制の充実及び院内助産の推進
- ⑤ 災害医療等の高度専門医療の充実

## 1. 稼働率・収支の推移

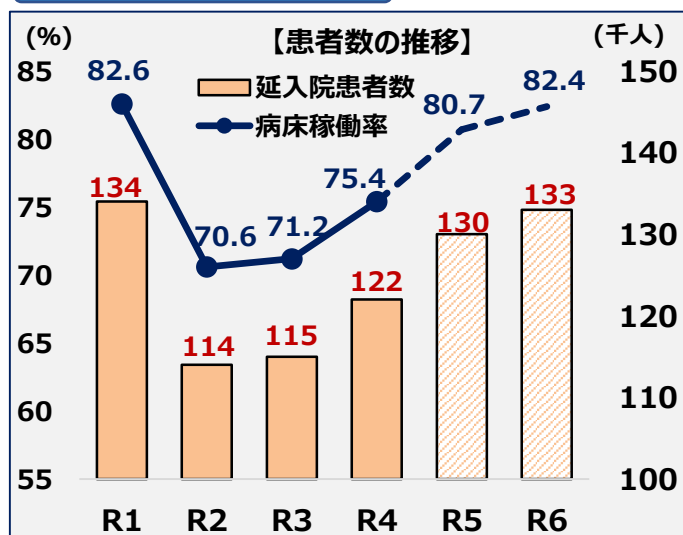
(単位：床、%、億円)

区分	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
稼働病床数	441	441	441	441	441	441	441	441	441	441	441
病床稼働率	84.0	81.8	84.3	85.4	84.1	82.6	70.6	71.2	75.4	80.7	82.4
経常収益	124	129	131	135	138	148	150	160	160	161	165
経常費用	130	131	133	135	137	148	147	153	159	163	166
経常損益	△6	△2	△2	0	1	0	3	7	1	△2	△1
純損益	△12	△3	△2	0	1	0	△6	11	1	△3	△1

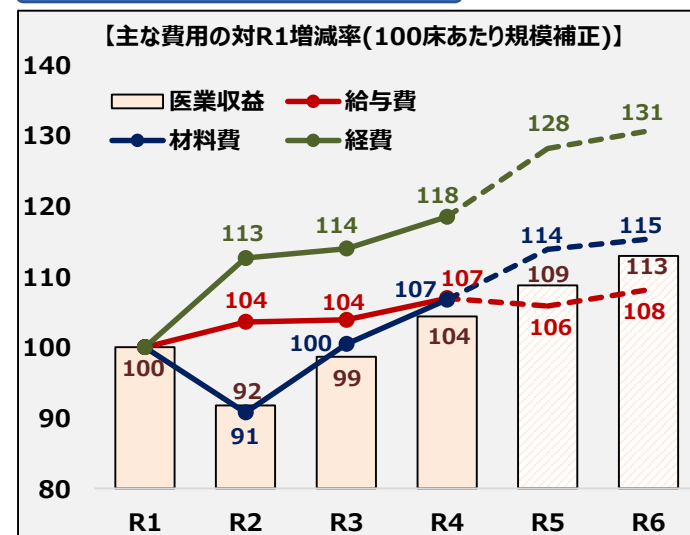
## 2. 医業収支



## 3. 稼働状況の推移



## 4. 主な費用項目の推移



# 06 各病院の状況⑦：こころの医療センター ※R5～R6は見込

【目指す病院機能】

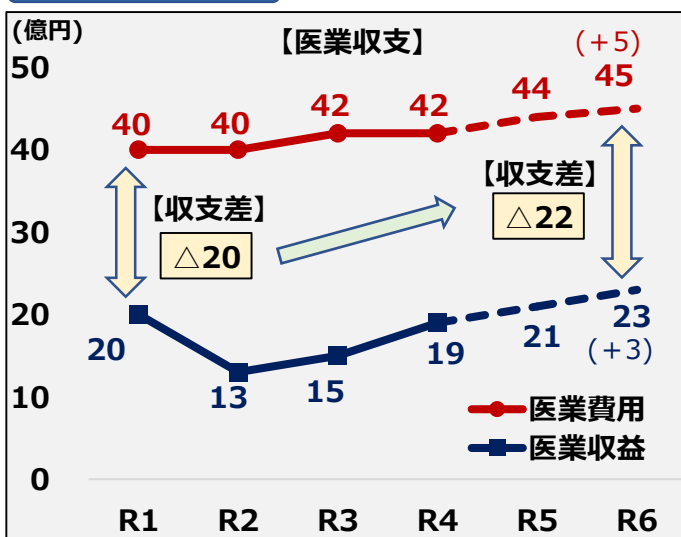
- ① 人権を守り、利用者に配慮した最善、最良の医療提供
- ② 時代の流れ、社会のニーズにあわせた精神科医療の提供
- ③ 不登校、ひきこもりなど、若年層のこころの問題に対応する児童思春期センター「ひかりの森」の運営
- ④ アルコール依存症をはじめとするアルコール関連問題に対応する「依存症医療センター」の運営
- ⑤ 神戸市認知症疾患医療センター指定病院としての認知症患者への良質な医療提供
- ⑥ 大規模災害時における災害拠点精神科病院としての最善の医療提供

## 1. 稼働率・収支の推移

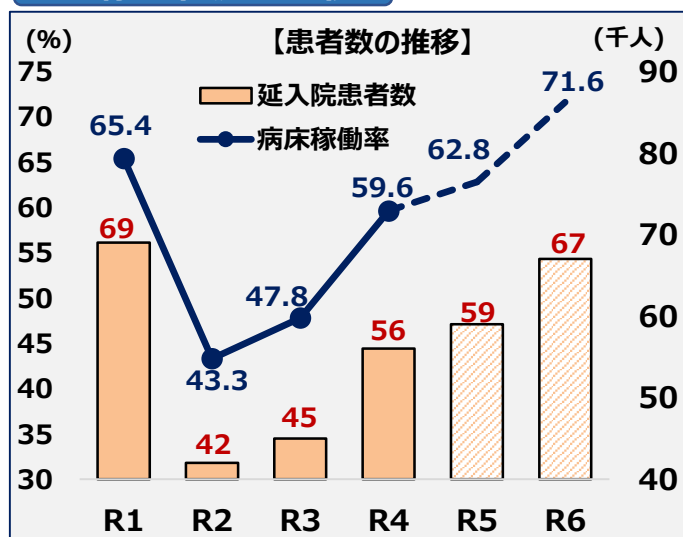
(単位：床、%、億円)

区分	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
稼働病床数	286	286	286	286	286	286	254	254	254	254	254
病床稼働率	62.1	64.8	63.9	76.3	72.5	65.4	43.3	47.8	59.6	62.8	71.6
経常収益	35	35	35	39	40	38	39	40	45	42	43
経常費用	40	40	38	41	40	42	41	43	43	45	45
経常損益	△5	△5	△3	△2	0	△4	△2	△3	2	△3	△3
純損益	△5	△5	△3	△2	0	△4	△8	△2	2	△3	△3

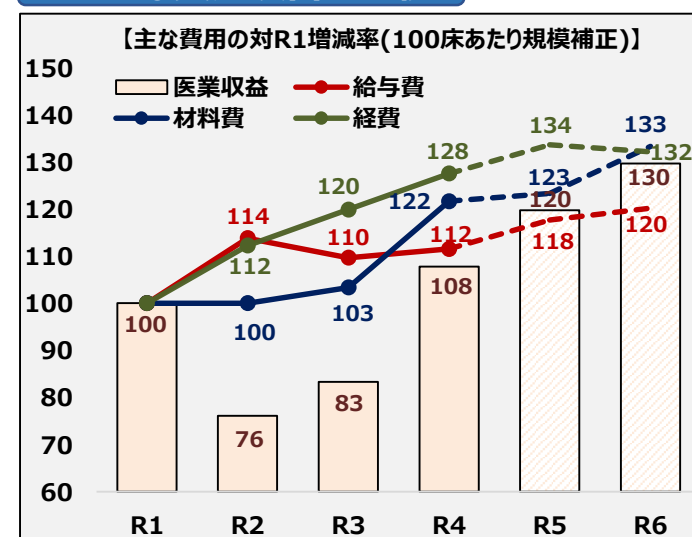
## 2. 医業収支



## 3. 稼働状況の推移



## 4. 主な費用項目の推移



# 06 各病院の状況⑧：こども病院

※R5～R6は見込

【目指す病院機能】

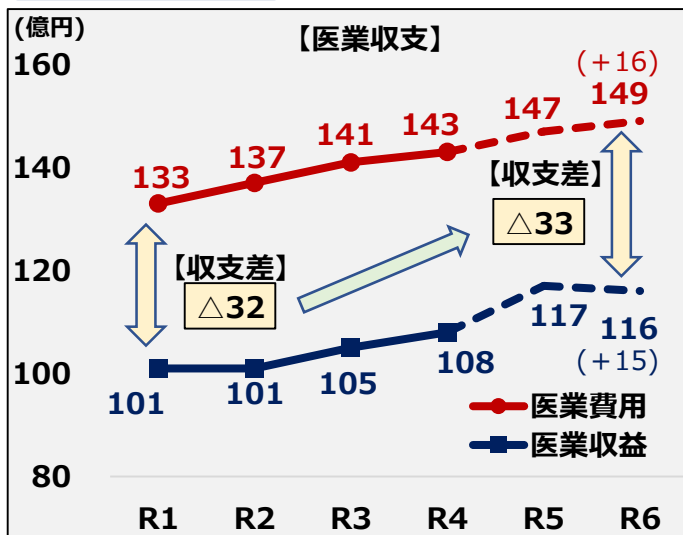
- ① 小児総合医療ならびに周産期医療における兵庫県の中核機関として高度専門医療を提供
- ② 総合周産期母子医療センター、小児救命救急センター、小児がん拠点病院、小児心臓センター等、子どもと家族を支える最後の砦としての24時間体制の診療を提供
- ③ 少子化によるこどもの人数の減少の環境のなか、県内のみならず西日本広域を見据えたブランド力向上
- ④ 医師主導治験等研究への積極的な取組による最新の医療を提供
- ⑤ 小児専門医療従事者の養成や医学生への臨床研究の場を提供

## 1. 稼働率・収支の推移

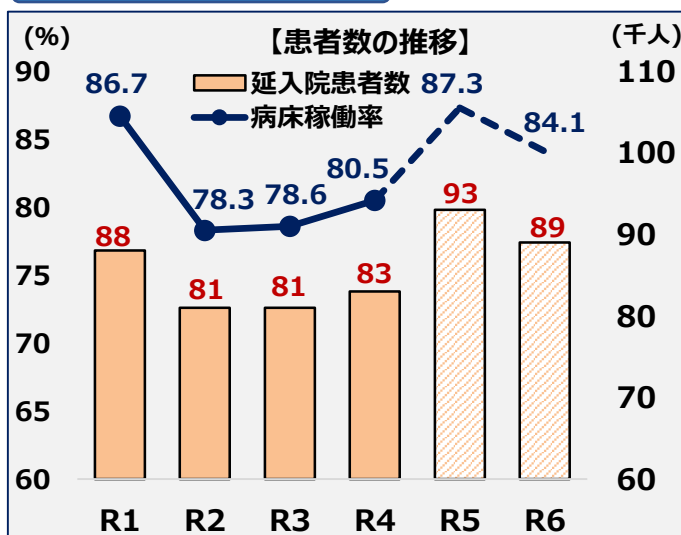
(単位：床、%、億円)

区分	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
稼働病床数	266	266	267	269	275	275	282	282	282	290	290
病床稼働率	86.4	85.9	78.7	86.9	79.1	86.7	78.3	78.6	80.5	87.3	84.1
経常収益	115	112	114	131	133	134	135	141	144	148	146
経常費用	112	112	123	134	134	135	139	142	145	148	150
経常損益	3	0	△9	△3	△1	△1	△4	△1	△1	△1	△4
純損益	3	0	△37	△3	8	△2	△7	△1	△1	△1	△4

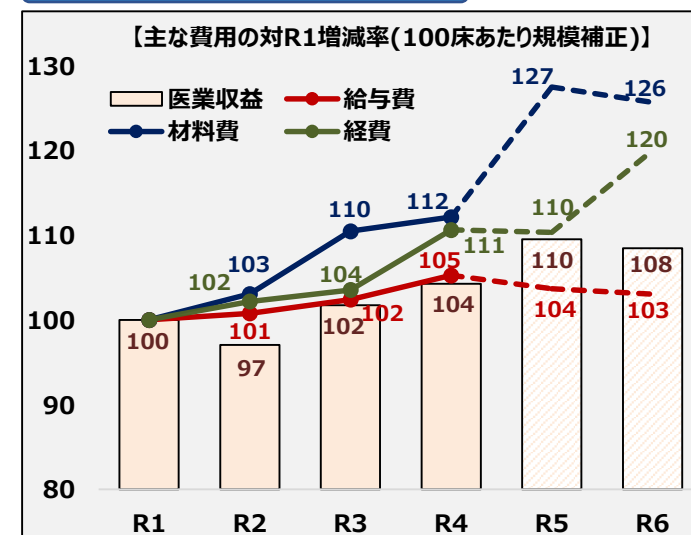
## 2. 医業収支



## 3. 稼働状況の推移



## 4. 主な費用項目の推移



# 06 各病院の状況⑨：がんセンター

※R5～R6は見込

【目指す病院機能】

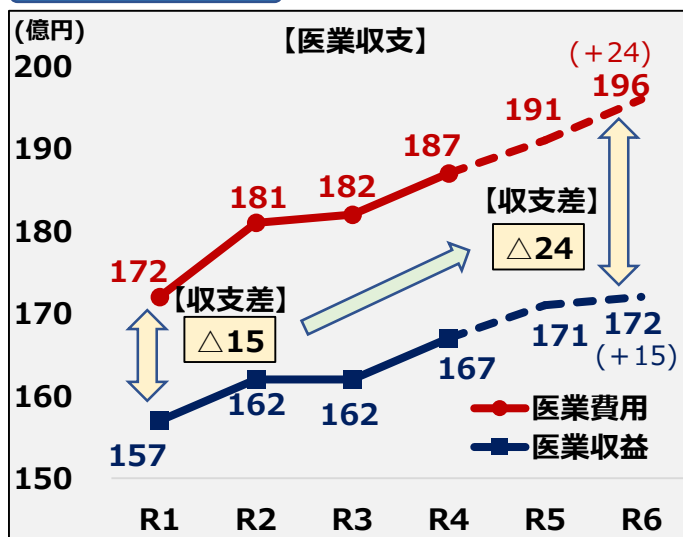
- ① 都道府県がん診療連携拠点病院として、県内のがん診療のリーディングホスピタルに相応しい最先端のがん医療の提供
- ② 県立粒子線医療センターや神戸陽子線センター、県立こども病院（小児がん拠点病院としてAYA世代のがんに対応）その他地域医療機関と綿密に連携し、総合的ながん医療の充実
- ③ 最先端のがん医療を継続的に提供するとともに、基礎から臨床への橋渡し研究や先進的な治験など臨床研究の充実
- ④ がん医療相談体制の充実、治療と仕事の両立支援強化、学校でのがん教育への協力等、社会的支援の積極的実施
- ⑤ がんゲノム医療拠点病院が実施できる、専門家が集まり、検査結果分析・治療法検討のエキスパートパネルを適切に開催できる体制の構築

## 1. 稼働率・収支の推移

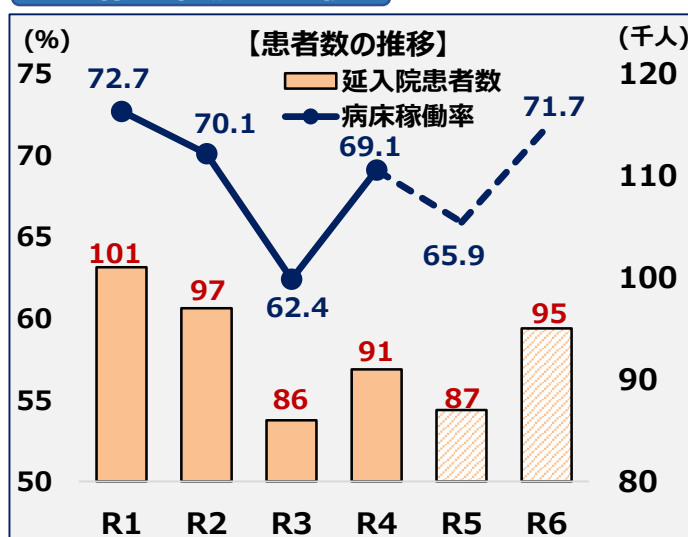
(単位：床、%、億円)

区分	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
稼働病床数	397	397	397	377	377	377	377	377	360	360	360
病床稼働率	80.8	79.3	76.9	76.9	76.3	72.7	70.1	62.4	69.1	65.9	71.7
経常収益	142	152	158	163	168	172	178	178	188	186	186
経常費用	139	151	155	160	166	173	183	183	188	192	197
経常損益	3	1	3	3	2	△1	△5	△5	0	△6	△11
純損益	3	1	2	3	2	△2	△17	△3	0	△6	△11

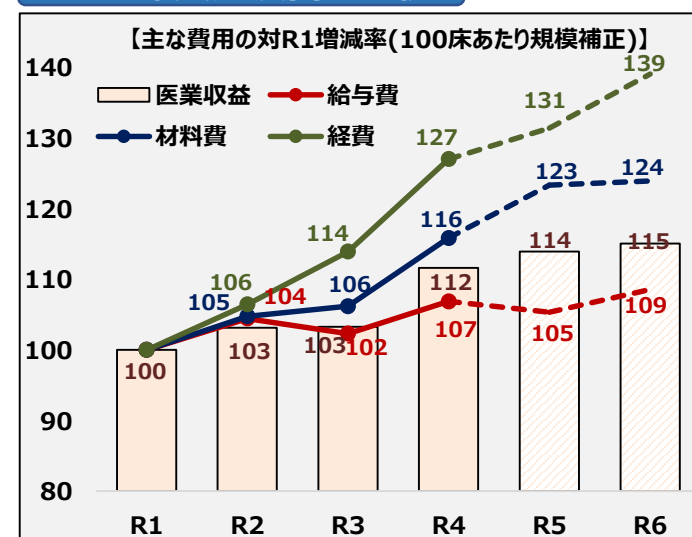
## 2. 医業収支



## 3. 稼働状況の推移



## 4. 主な費用項目の推移



# 06 各病院の状況⑩：粒子線医療センター

※R5～R6は見込

【目指す病院機能】

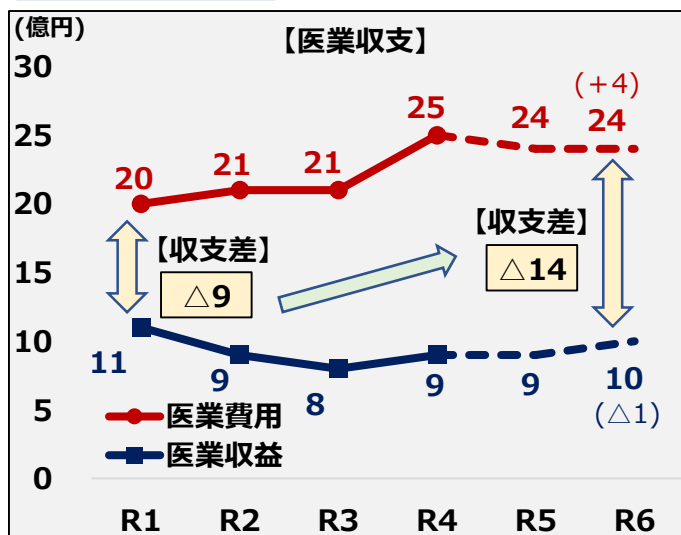
- ① 後発施設との差別化対策として、HIBMCが蓄積する精度の高いプロトコルを活かした難度の高い症例のメッカ
- ② 県立病院群グループ力を最有効利用し、適応患者を取りこぼしなく紹介されるNWを有する施設
- ③ ケモ治療効果が良好な膵ガン患者について、特定病院とAlliance構築し、悉皆で粒子線治療の適応度を判定、適応患者の治療を自ら行える施設
- ④ HIBMS関与など一定の信頼感を持てる海外医療機関から、紹介元での責任ある治療後予後観察を条件として、治療キャパと日本人向け治療ボリュームのすき間でインバウンド対応できる施設

## 1. 稼働率・収支の推移

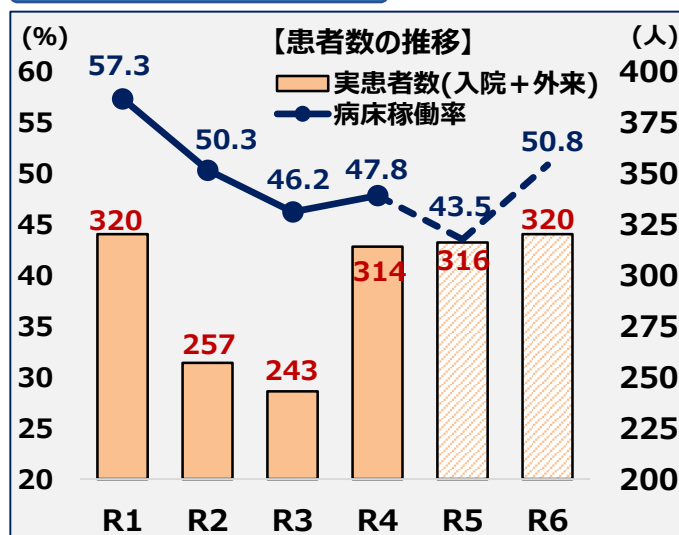
(単位：床、%、億円)

区分	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
稼働病床数	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50
病床稼働率	81.9	78.8	72.1	78.8	76.3	57.3	50.3	46.2	47.8	43.5	50.8
経常収益	39	36	34	35	32	20	17	16	18	17	17
経常費用	39	39	39	34	33	23	24	24	27	26	26
経常損益	0	△3	△5	1	△1	△3	△7	△8	△9	△9	△9
純損益	0	△3	△5	1	△1	△3	△8	△8	△9	△9	△9

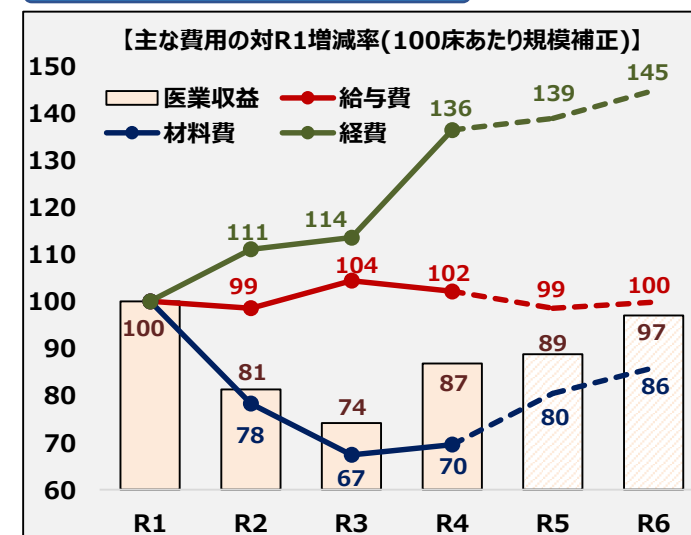
## 2. 医業収支



## 3. 稼働状況の推移



## 4. 主な費用項目の推移



# 06 各病院の状況⑪：神戸陽子線センター

※R5～R6は見込

【目指す病院機能】

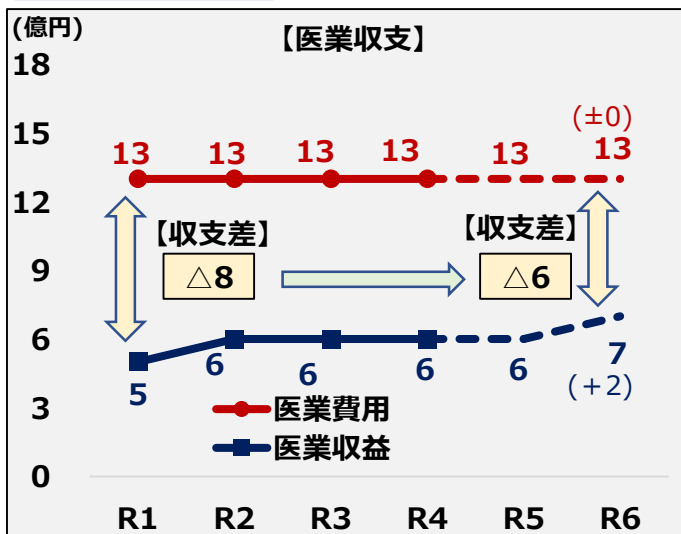
- ① 小児がん患者に、いつでも最優先で陽子線治療が開始できる施設
- ② 入院できる本院たつの粒子線センターと有機的な連携体制を整えた陽子線治療の診療所
- ③ ポーアイという立地条件を有効利用できる陽子線治療施設（大学病院等医療機関、交通利便性）

## 1. 稼働率・収支の推移

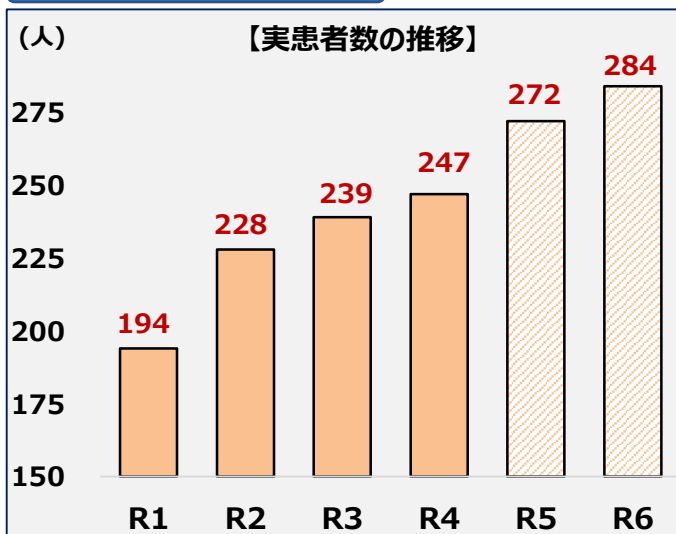
(単位：床、%、億円)

区分	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
稼働病床数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
病床稼働率	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
経常収益	—	—	—	1	7	8	9	9	9	10	10
経常費用	—	—	—	3	13	14	14	14	14	14	14
経常損益	—	—	—	△2	△6	△6	△5	△5	△5	△5	△4
純損益	—	—	—	△2	△6	△6	△5	△5	△5	△5	△4

## 2. 医業収支



## 3. 稼働状況の推移



## 4. 主な費用項目の推移

